

## ●最近の県内経済

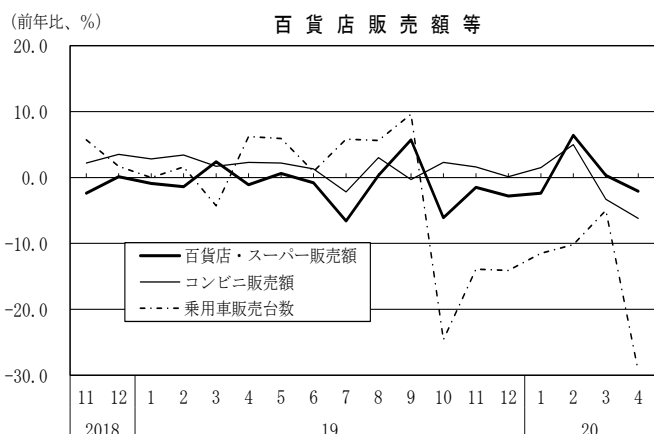
**基調判断**  
(2020年4月を中心として)



**今月の概要**

県内景気は、新型コロナウイルス感染拡大による経済への影響から大幅に悪化しており、厳しい状況にある。

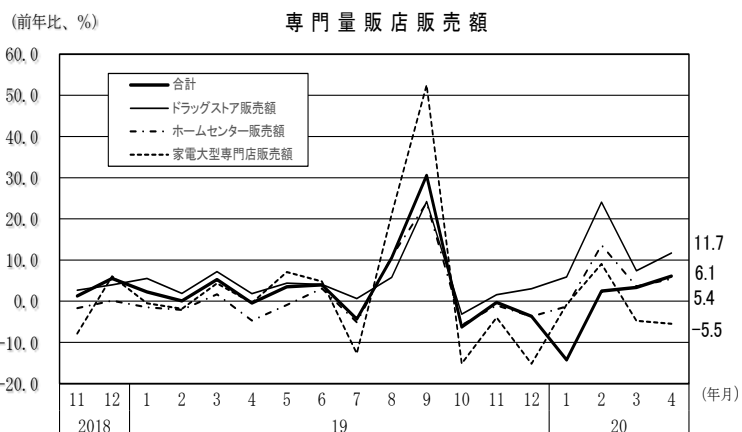
### 1 個人消費 大幅に減少



(資料)経済産業省、埼玉県自動車販売店協会など

4月の百貨店・スーパー販売額(店舗調整前)は、977億円で前年比2.1%減となった。百貨店が同71.4%減と大幅な減少となった一方、スーパーは同9.2%増となった。一方、コンビニ販売は489億円で同6.2%減となった。

乗用車販売は、同29.4%減と7か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車(同38.0%減)、小型車(同13.8%減)、軽乗用車(同33.6%減)ともに大幅に減少した。

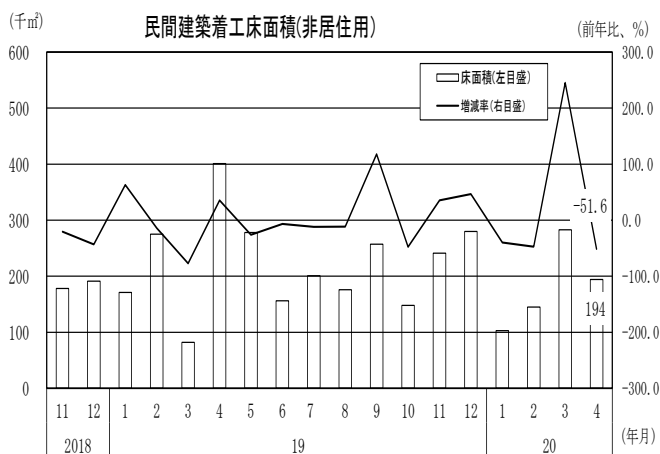


(資料)経済産業省

4月の専門量販店販売額は、702億円で前年比6.1%増となった。内訳をみると、家電大型専門店が145億円で同5.5%減となった一方、ドラッグストアが377億円で同11.7%増、ホームセンターが180億円で同5.4%増となった。

個人消費は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、一部衛生用品や生活必需品購入を除いて2月以降大きく落ち込んでいる。関東の消費者態度指数(原数値)は、3月(30.5)、4月(21.2)、5月(23.9)と低迷している。

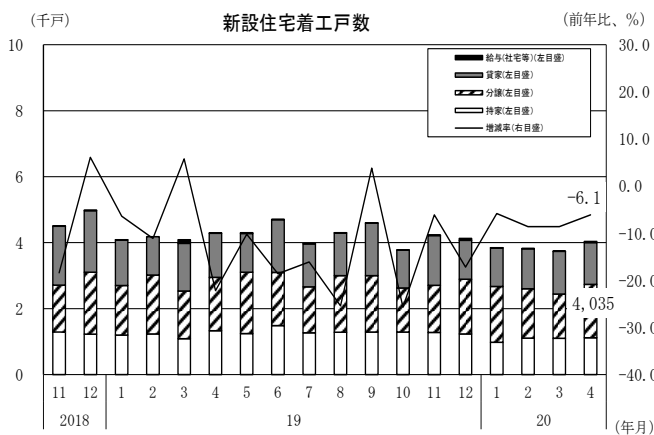
## 2 設備投資 減少



(資料)国土交通省

4月の民間建築着工床面積(非居住用)は、194千㎡で前年比51.6%減となった。用途別にみると、病院・診療所が増加した一方、事務所、店舗、工場及び作業場、倉庫はいずれも減少した。

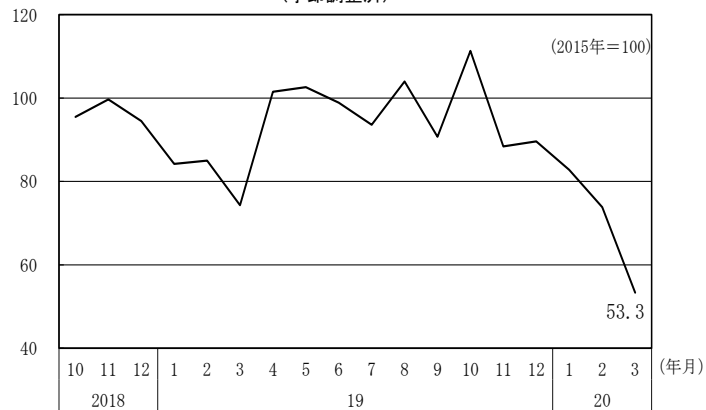
## 3 住宅建設 減少



(資料)国土交通省

4月の新設住宅着工戸数は、4,035戸で前年比6.1%減と7か月連続の減少となった。利用関係別にみると、分譲マンション(407戸)が同57.1%増となった一方、持家(1,118戸)が同15.9%減、貸家(1,264戸)が同5.3%減、分譲戸建て(1,212戸)が同10.9%減となった。

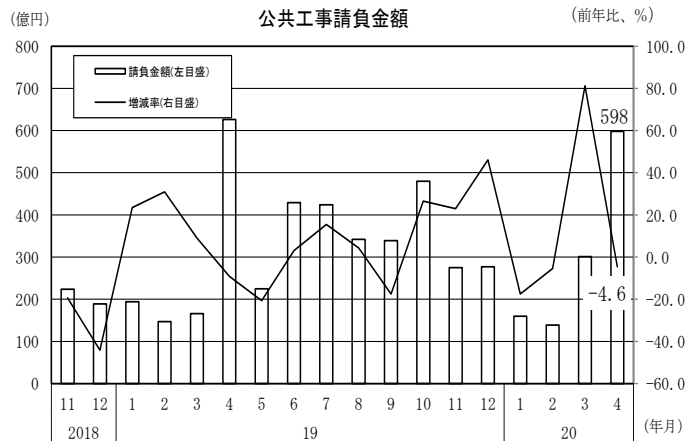
## 資本財出荷指数 (季節調整済)



(資料)埼玉県

3月の資本財出荷指数(季節調整済)は、53.3で前年比27.8%の低下となった(3か月連続の低下)。

## 4 公共工事 増加基調

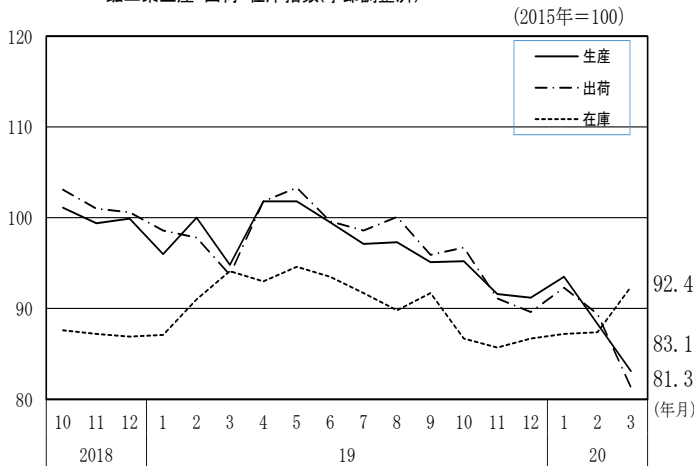


(資料)東日本建設業保証株式会社

4月の公共工事請負額は、598億円で前年比4.6%減となった(5か月後方移動平均でみると前年比11.6%増)。発注者別でみると、国、都道府県、地方公社が増加した一方、独立行政法人、市区町村等が減少した。

## 5 生産活動 大幅に低下

鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済)



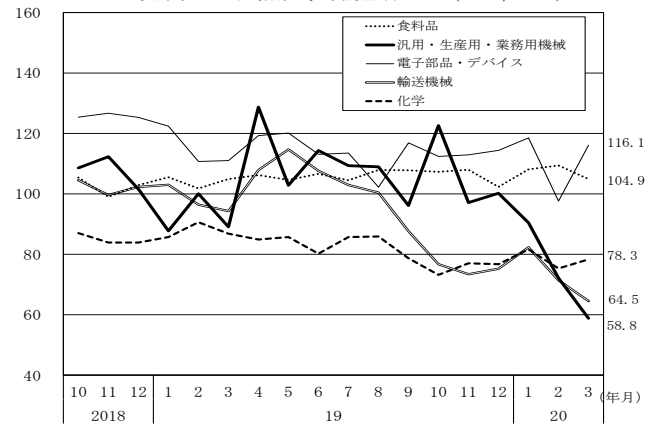
(資料)埼玉県

3月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、83.1で前月比5.9%低下した(2か月連続の低下)。電子部品・デバイス(混成集積回路)、化学(医薬品、合成樹脂塗料)などが上昇したが、生産用機械(半導体製造装置、フラットパネル・ディスプレイ製造装置)、業務用機械(パチンコ、医療用機械器具)などが低下した。

出荷指数(同)は、81.3で同9.1%低下した(2か月連続の低下)。電気機械(電力変換装置、サーボモータ)、繊維(織物製繊維製品)などが上昇したが、生産用機械(半導体製造装置)、情報通信機械(カーナビゲーション、交換機)などが低下した。

在庫指数(同)は、92.4で同5.7%上昇した(4か月連続の上昇)。家具(システムキッチン)、食料品(精米)などが低下したが、輸送機械(普通トラック、乗用車)、電子部品・デバイス(混成集積回路、トランジスタ)などが上昇した。

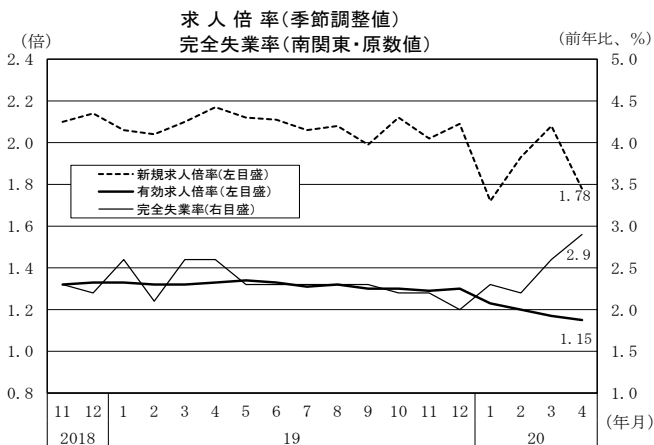
主要業種の生産指数(季節調整済) (2015年=100)



(資料)埼玉県

- ◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、104.9で前月比4.1%低下し、3か月ぶりの低下となった。
- ◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、58.8で同18.5%低下し、3か月連続の低下となった。
- ◆ 電子部品・デバイス(同)は116.1で同19.0%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。
- ◆ 輸送機械(同)は、64.5で同9.7%低下し、2か月連続の低下となった。
- ◆ 化学(同)は、78.3で同4.0%上昇、2か月ぶりの上昇となった。

## 6 雇用情勢 悪化している



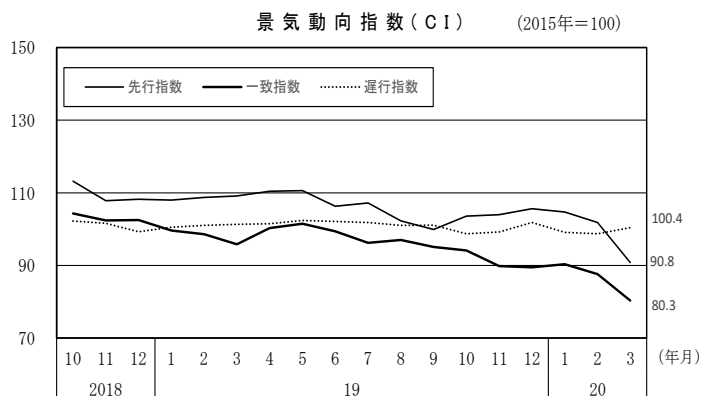
(資料)厚生労働省、総務省

4月の新規求人倍率(季節調整済)は1.78倍で前月比0.30ポイント低下した。一方、有効求人倍率(同)は1.15倍で同0.02ポイント低下した(4か月連続の低下)。

完全失業率は(南関東、原数値)は、2.9%で前年同月比0.3%上昇した。

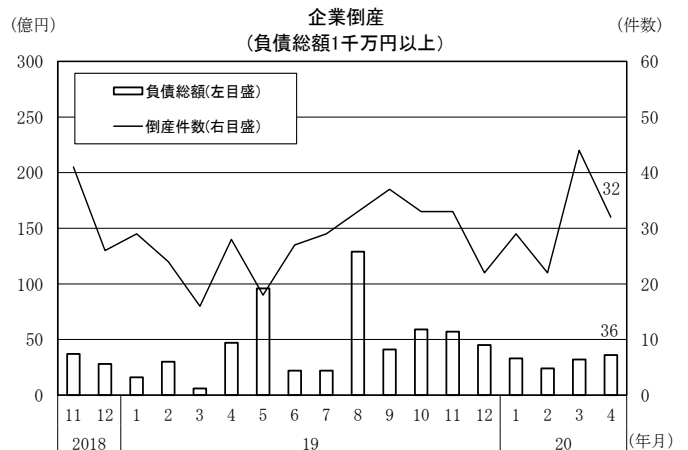
## 〈参考〉

### 景気動向指数(CI) 悪化を示している



(資料)埼玉県

## 7 企業倒産 増加基調



(資料)帝国データバンク

4月の企業倒産件数は32件で前年比4件の増加、負債総額は36億円で同11億円の減少となった(5か月後方移動平均でみると、件数は前年比21.1%増、金額は同33.9%増)。

業種別にみると、建設業が8件で最も多く、次いで製造業、卸売業、小売業が、それぞれ5件となっている。主因別では、販売不振が27件で最も多くなっている。

倒産件数は前月を下回ったものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、規模、業種を問わず多くの企業で厳しい状況が続くものと思われる。

3月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、80.3で前月比7.3ポイント低下し、2か月連続の低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、90.8で同11.0ポイント低下し、3か月連続の低下となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、100.4で同1.7ポイント上昇、3か月ぶりの上昇となった。